

EU Indicators

欧州経済指標コメント：1月英国PMI

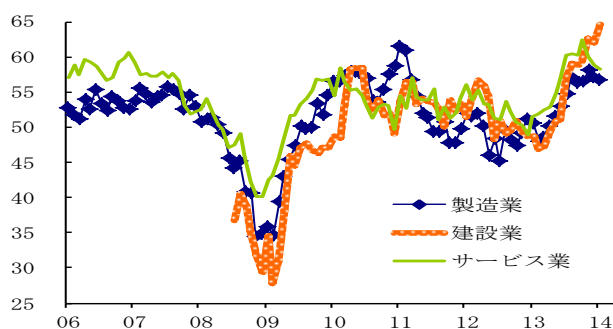
発表日：2014年2月6日(木)

～早期利上げ観測の抑制に好都合な軟着陸～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

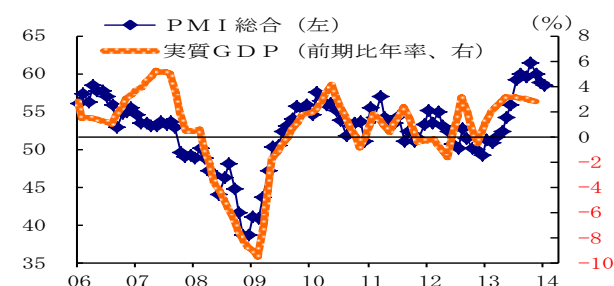
- 5日に出揃った1月の英国のPMI指数は、建設業が過去最高を更新した一方、製造業が2ヶ月連続、サービス業が3ヶ月連続で改善モメンタムが鈍化した(左図)。3業種を合成した総合指数(GDPの業種別ウェイトより筆者が加重平均)は昨年10月をピークに3ヶ月連続で改善モメンタムが鈍化。昨年夏場に水準を切り上げた後、足踏みが続いているが、極めて高い水準を維持している。1月は記録的な豪雨に見舞われたことで企業活動に影響が出たとの指摘もある。
- このところPMIとGDP成長率との間に乖離が生じているが、これは三番底も懸念された景気が急回復に転じたことで、業況判断が一気に上方に屈折したことが影響しているものと思われる(右図)。英国景気は順調な回復軌道にあり、PMIのモメンタム鈍化も先行きの景気失速の兆しと言うよりは、景気の安定成長軌道への軟着陸を示唆するもの。発表元のMarkitによれば、足許のPMIの水準は前期比+0.8%程度の成長率に相当するとのことだが、さすがにそれは出来すぎ。それでも1-3月期は前期(速報時点で前期比+0.7%)並みか、それをやや下回る程度の高成長が示唆される。
- 製造業では内外受注が堅調で、人員増の報告が増えている。建設業では、住宅、商業施設、公共事業が揃って改善が加速。サービス業では入荷遅延や人手不足の報告が増えており、経済の未利用資源(スラック)が減少している可能性が示唆される。インフレ圧力や賃金上昇は今のところ軽微だが、投入・販売価格がいずれも上昇しており、価格転嫁の報告が増えている点はやや気懸かり。

■英国：製造業、建設業、サービス業PMI指数



出所：Markit

■英国：PMI総合と実質GDP成長率



注：PMI総合はGDPの業種別ウェイトを用いて製造業・建設業・サービス業PMIを加重平均。
 出所：Markit、英連邦統計局

■英国企業景況感(季節調整済み)

	2013				2014											
	1Q	2Q	3Q	4Q	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月				
PMI	製造業	49.0	51.5	56.1	57.3	52.9	54.8	57.1	56.3	56.5	58.1	57.2	56.7			
	建設業	47.6	50.4	58.3	61.4	51.0	57.0	59.1	58.9	59.4	62.6	62.1	64.6			
	サービス業	51.9	54.9	60.3	60.4	56.9	60.2	60.5	60.3	62.5	60.0	58.8	58.3			
CBI	受注	-16	-21	-1	6	-18	-12	0	9	-4	11	12	-2			
	輸出受注	-20	-20	-7	0	-22	-20	-7	6	-12	1	11	-16			
	最終財在庫	14	16	12	8	21	15	15	5	8	7	8	8			
	生産見通し	12	17	24	16	10	15	25	33	9	24	16	23			
	販売価格見通し	15	5	2	5	3	2	0	3	-2	5	11	20			

出所：Markit、CBI

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。